第1459回（4月17日）

地域農業の負債問題と農協の課題

両角和夫，千葉　修，清水純一
茂野隆一，小野智昭，高橋克也

農業金融は今日，二つの大きな問題に直面している。一つは，金融自由化対応の問題，もう一つは農家負債問題である。

前者は，昭和50年代末以降急速に進む金融自由化によって惹起された問題である。農業金融は，農協あるいは農林公庫など人為的・政策的金融機関によって担われ，金融市場の中ではこれまで相対的に独自の領域を形成してきた。しかし，金融自由化は我が国金融市場を大幅に再編成しようとするものであり，最終的には農業金融のあり方を問うことになる。現に農業金融の一翼を担う農協金融は，金融市場において生き残り競争に巻き込まれ，新たな位置づけを模索せざるを得ない状況にある。

一方，後者の問題は，50年代に入って見られた固定化負債を持つ農家の急速な増加とそれへの対処をめぐる問題である。この問題は，すぐれて専業的農家に関わる，したがって地域農業のあり方に関わる重大な問題である。農協にとっては自らの組織・経営基盤の存続が問われる重大な問題である。また，農村の社会問題をもたらすものでもある。

本報告の課題は，この後者の問題を取り上げ，そのもつ意味と農協の課題を明らかにすることにある。前者の金融自由化の問題については，前年度の研究調査結果を参照されたい。（農協研究会研究資料1「転換を迫られる農協信用事業――都市農協の金融自由化対応の実態――」1989）。

農家負債問題は，全国的にみれば，農協の積極的な対応とそれを支援した政策努力によって，最近ではやや鎮静化の方向にある。この問題の発生を契機として農協の信用事業体制が見直され，その本来の金融といわれる指導金融も改めて徐々に確立される動きも見られる。その意味では，この問題を巡って明るい展望がないではない。

しかし，専業的農家の経営環境は必ずしも好転せず，負債問題からの立ち直りの困難な農家は依然多い。問題は依然深刻である。しかも，今日のわが国農業を巡る環境は農産物の市場解放，あるいは農業の国際化の進展の中でさらに厳しい状況になってきている。農家の負債問題の解決は，今日迫られている高生産性・低コストの農業の確立のためにも早急に進められねばならない。

本報告は，農協研究会のメンバーが平成元年度に行なった調査研究に基づくものである。ここでは，次の3つの柱建で報告したい。

第1は，農家負債問題が主として農業地帯の問題であり，かつ，すぐれて専業的農家の問題であることを確認し，農業地帯の農協における負債対策の実状と信用事業の果たすべき課題を示すことである。

第2は，地域農業にとっての農家負債問題の持つ意味を，岩手県X町を対象に行なった実態調査に即して整理・検討する。

① 町の農業と農協の展開の画期と地域農業・農協の今日的状況，② 農協経済事業と畜産振興との関わり，③ 農協信用事業と負債対策の実態，④ 事例的にではあるが負債農家を中心に農家・生産組織の経営の実態と抱える問題，⑤ 地域経済・財政問題，⑥ 農家負債問題の意味と農協の課題。

第3は，岩手県における負債対策の経過と内容を取りまとめたものを示す。本県の対策はこうした問題に対する懸命の対応の中で徐々に体系化された。これらを整理しておくことは，今後の研究の上でも，さらに実務の参考としても大いに意味がある。

なお，本調査研究の成果については，農協研究会資料2「地域農業の負債問題と農協の課題」（平成2年3月）を参照されたい。

（文責・両角和夫）